

# 学 園 報

No.57

富山国際学園 URL <https://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>  
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>  
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>  
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

## ●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444  
 TEL/076-436-5139  
 FAX/076-436-5444

## 地域交通の重要性



理事長

金岡 克己

富山地方鉄道が、行政の支援が示されない場合、路線の一部を廃止する方針を発表しました。地鉄本線の滑川－新魚津間、立山線の岩峯寺－立山間を2026年11月末に廃止、新魚津－宇奈月温泉間も廃止を前提に協議する内容です。

富山地方鉄道は、鉄軌道王国を自称する富山県の私鉄の代表であり、その営業距離は93.2km、駅数は67に上ります。通勤、通学に加え、立山や黒部観光の足の役割を果たしてきました。また、旧富山ライトレールを含む市内電車や路線バスの運行を担っています。

廃止の理由は、鉄道事業の損益が、2020年度から毎年5億円を超える赤字を計上、累積損失が60億円に達するとの説明です。人口減少に加え、新型コロナからの旅客回復の遅れ、設備の保全コストの上昇などが上げられます。大きいのは自家用車の普及でしょう。1970年の輸送人員1800万人／年に対し、近年は450－500万人／年程度で推移しています。

沿線自治体や議会関係者からは、経営に対する厳しい声が聞かれますが、元々は戦時中の1943年に、複数の鉄道・バスを合併させて生まれた会社です。富山県や富山市も出資し補助金を出しています。民間企業の問題と安易に突き放す訳には行かないでしょう。

昨今、自動車全盛から、社会の高齢化、環境問題を意識する時代へと変わり、公共交通、特に鉄道の役割が見直されています。交通政策白書によると、一人を1km運ぶのに要するCO<sub>2</sub>の排出量は、自家用車127gに対し、バス63g、鉄道17gです。また、高齢者の交通事故が多発し、自動車免許の返納が社会課題となる中、鉄道の重要性を見直す声が高まっています。富山市のコンパクトシティ構想はその一例で、公共交通と

居住エリアを組み合わせ、市民の利便性向上、行政コストの削減に役立てようというものです。

美川憲一の『柳ヶ瀬ブルース』に歌われた岐阜市の柳ヶ瀬

地区、12もの映画館があった国内有数のアーケード商店街に、かつての面影はなく活性化が急務とされます。衰退理由の一つが2005年の路面電車の全廃です。車の通行に邪魔との主張に押されたものですが、現在は、富山市、宇都宮市の成功例を参考に、LRTを走らせる計画が再浮上しています。

これなどは、住民の要求が、時に、いかに近視眼的かを物語る事例でしょう。

富山国際学園は地域交通の恩恵を受けています。多くの学生・生徒がバスを利用しています。また、さらなるアクセス向上のため、あいの風とやま鉄道の願海寺新駅建設の運動を地域の皆さまとともに推進しています。

現代の地域交通に求められるのは、高速性よりも利便性と考えます。旧ライトレールは7.7kmの営業区間に15の駅を配置し、利用客を増やしました。学園の呉羽キャンパスは、富山市、高岡市、射水市という人口上位3市の中央部に位置しています。そして、小杉－呉羽の駅間は6.6kmと、21駅中2番目に長い距離です。新駅では、富山国際学園の学生・生徒・教職員を含め、一定の利用客が見込めます。駅周辺の新たな活性化にもつながるでしょう。

願海寺新駅の実現に向け、皆さまの積極的なご支援、ご協力をお願いいたします。

### CONTENTS

- 地域交通の重要性 理事長 金岡 克己 ..... 1
- 特集1 「福祉人材の育成・確保に向けた地域内連携プロジェクトY」～育成機関×地域×福祉による富山市での人材育成～ ..... 2～3

- 特集2 富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰を受賞しました！ ..... 4
- 学園NEWS ..... 5
- 令和6年度決算及び財務の状況 ..... 6～7
- ご寄付のお願い ..... 8
- 令和7年度部門別学生・生徒・園児数等 ..... 8

# 「福祉人財の育成・確保に向けた地域内連携プロジェクトY」 ～育成機関×地域×福祉による富山市での人財育成～



村上研究室

富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 (プロジェクトY代表)

## はじめに

近年、ご存知のとおり福祉はじめ教育や医療等、生活維持に不可欠なエッセンシャルワーカーの人手不足感は否めず、加えて、生産年齢人口の減少も相まって、労働力不足の深刻化が懸念されています。

そこで、下記の問題への緩和と適応、15年後の次なる問題をも見据え、本事業の着想に至りました。

- ①第一次ベビーブーム世代が、75歳以上の後期高齢者となり、2040年には65歳以上の高齢者人口がピークに達していく中で、ますます年金や医療、福祉といった社会保障費が膨らんでいくことへの緩和策と適応策の検討。
- ②とりわけ、医療保険給付が顕著に増加することへの緩和策と適応策の検討。
- ③医療や福祉ニーズが急増するも、病院数は減少傾向のため、専門職の人手不足を引き起こすことへの緩和策と適応策の検討。
- ④高齢者の5人に1人が認知症となり、必要とされる福祉人財が確保できず、深刻な人財不足となることへの緩和策と適応策の検討。
- ⑤8050問題（80代の親が50代の子の生活を支え負担を請け負う社会問題）が、ますます顕在化していくことへの緩和策と適応策の検討。
- ⑥約5軒に1軒は、空き家になってしまうことへの緩和策と適応策の検討。

2040年代に、高齢者人口がピークに向かっていく中で、より身近な地域で支える福祉人財がますます不足することは必至であり、だからこそより高度な専門職の育成とその確保が求められるわけです。

そこで、人財育成の部分に特化したモデル事業を考案し、展開していく必要があるとして、2025年7月から2年間（今年度は5,000千円）、富山市（福祉保健部福祉政策課）から委託（受入先：村上研究室）を受け、高度な福祉人財の発掘や育成を目的に富山市八尾地域を拠点とする活動を開始しました。

## プロジェクトYの特徴

本事業は、八尾（Y）を拠点に、2つのプロジェクトを展開するところに大きな特徴があります。

### 1)「育成機関」プロジェクト

八尾高校2年生を中心に、2年間にわたってのプロジェクトであり、県内で唯一普通科「福祉コース」を設ける高校だからこそ、取り組むことのできるプロジェクトです。現在、福祉コースの学生とのワークショップはじめコミュニケーションを高めるための授業を定期的実施しています。例えば、「変な地域」と題したワークショップ。八尾地域を想定し、地図や住民の情報から“困りごと”を読み解きながら、地域のよいところ（強み）も見つけて、住民の思いや考えを「聴き出す・引き出す」中から解決策を導き出していくアプローチを取り入れています。

福祉に意欲的に取り組んでもらいたいと我が研究室の学生らがオリジナルの教材を考案し、製作しており、このことも授業の魅力となっています。

これらの授業を通して2年後、本学への進学を選択してもらえるよう、今後も丁寧にサポートすることで、八尾地域の福祉人財を育成していきます。

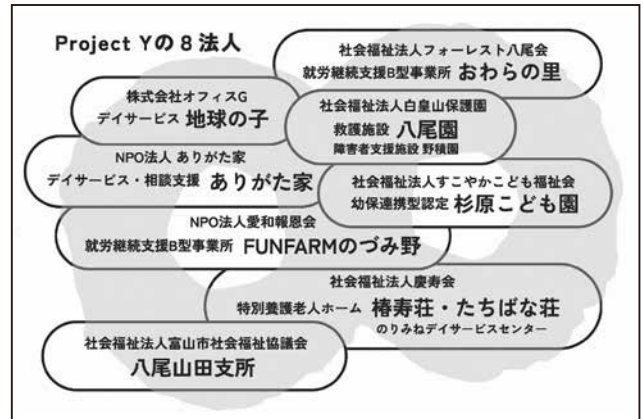
さらには、「育成機関」への切れ目ない支援として、八尾中学校の生徒も対象にしながら、本プロジェクトは展開しています。例えば、1年生全員による福祉施設での体験授業はじめ福祉を学ぶ本学学生との交流、いつでも福祉施設でボランティア活動を行えるようにと生徒たちが自発的に立ち上げた「地域協働サークル」の活動支援等を随時行ってきました。このように、自分の住む地域に目を向けること、身近な誰かの困りごとに寄り添うこと、相手の良いところにも気づこうとすること、等の姿勢を日頃の営みの中から、自然に考えられるやさしさ（優しさ・易しさ）づくりを意識し、育成につなげています。



八尾高校福祉コースでのワークショップ



村上研究室の学生とのグループワーク



Project Y を構成する8つの法人



メンバーとの打ち合わせの様子（8を指で表現）

## 2)「地域連携プラットフォーム」プロジェクト

「プロジェクトY」には、とある番組を超えよう、「XからYへ」という意気込みと思いも込められています。つまり、八尾という地域を挙げて、福祉分野の人財難を乗り越えるべく、立ち向かう住民たちの物語というプロジェクト内容にもなっています。

そこで、登場していただく応援団として、八尾にちなみ8つの福祉団体（子ども、障がい者、生活困窮者、高齢者、ごちゃまぜ、ボランティア育成団体、難病支援団体）を選定しました。比較的小規模な法人を中心として機動力あふれるネットワーク化を図りたいというねらいもあります。モットーは、“つながりこそ社会的処方箋！”です。今こそ配置業富山の底ヂカラを発揮する時だとして、担い手不足やボランティア活動等に効き目がある地域の配置役を“フクシッ”なる新たな言葉とともに発信します。

## 3)卒業生をチーフコーディネーターとしても起用

5年前に子ども育成学部（村上研究室）を卒業した飯田千晴さん。現在は、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修士課程2年生として在籍し、社会福

祉とサービスデザインの2つの視点で、人々の幸せに深く関わる「福祉」を共通言語とする地域社会での暮らし方、生き方を研究する大学院生でもあります。

今回は、チーフコーディネーターとして、八尾地域でのプロジェクトを通して、地域で福祉を語り合う文化を育む過程を丁寧に評価してもらっています。

今後の福祉人財の育成のあり方、関わり方を模索する共同研究者であり、たよりになる卒業生です。

## “フクシッ”を全国に

リーダーシップやスポーツマンシップといった性質や技能、心構えを表す“○○シッ”という言葉がありますが、福祉に関わる者としての資質だけでなく、福祉に向き合う心そのものを表す造語として、本プロジェクトのキーワードを考案してみました。

福祉分野で働く専門職の知識・技術・価値はもちろんのこと、福祉と向き合い、福祉を考えるボランティア活動への姿勢やまなごしも含めた“フクシッ”を一人ひとりが育む、まちづくりへの挑戦なるプロジェクトYの物語は、これからもつづきます。

# 富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰を受賞しました！

富山短期大学 食物栄養学科・専攻科

2025（令和7）年10月6日、富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の会場で、富山短期大学が優良活動表彰を受賞いたしました。

昨年10月、JA全農とやまと産学連携協定を結び、食物栄養学科では、富山県産農畜産物を使った商品開発及びレシピ考案や、地産地消の推進、食品ロス削減等SDGs課題に取り組むこととしました。



産学連携協定調印式

昨年度の取り組みを2つご紹介いたします。

1つは、トミタンスイーツラボのメンバーによる、規格外の県産フルティカトマトを使った「とやまのベジタブルソース」に関する取り組みです。糖度や酸度が足りずに商品にならないフルティカトマトを使ってJAさんがソースを作りました。そのソースを「とやまのベジタブルソース」と名付け、可愛いラベルを考え、商品化するとともに、ソースを使った料理を考案し、レシピ集を作成しました。「ベジタブルソースのにんにくの香りやトマトの味は、チーズや卵とよく合いました」と、学生達は試作し、意見を出し合いながら、主食、主菜、副菜と15種のメニューを完成させ、JAのキッチンカーで販売してもらいました。

また、卒業研究ゼミで、食品ロスや食品廃棄物の削減に向け、食べられるのに捨てられている食材（例えば、ブロッコリーの茎やキャベツの外葉、ねぎの緑部等）について、研究をしました。食べられるのに捨てられている食材について、廃棄の現状と廃棄理由を調査しました。そして、廃棄されがちなこれらの食材を活用したおいしいレシピの考案を研究し、3月レシピ集としてまとめました。「野菜の種類や部位によって、可食部除去の多い食材すなわち過剰除去になりやすい食材と、可食部除去の少ない食材があることがわかりま

した」「過剰除去や捨てる行為は、一人一人の心がけで変わるのではと思えました」「おいしく調理ができて、ごみも減らせたらうれしいので、これからも取り組んでいきたいです」と研究をまとめていました。今回の表彰では、これらの活動を評価してもらいました。



富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰式

食物栄養学科では、以前からも食品ロス削減の研究や取り組みを行っています。

富山県内でとれる未利用魚や魚の廃棄部位を活用したレシピの考案や、未利用魚の機能性について分析や研究をしました。また、フードバンク・フードドライブに取り組んだり、こども食堂と連携してフードバンクから届く食材を活用したレシピの考案を行ったりと、食品ロス削減や有効活用に向けての活動を続けてきました。

これからも富山県産のおいしい食材を余すことなく有効に活用し、SDGsや食品ロスの削減と富山の「おいしい食」を考え、広めていく取り組みを、JA全農とやまさんや生産者の皆さんと連携しながら、進めていきたいと思えます。



洋風おでん



豚肉のスタミナ炒め



キャベツの芯の肉巻きフライ



ブロッコリー丸ごとパスタ

## 富山国際大学

### 産学官連携の推進で特色ある教育を！



推進します。

2025（令和7）年9月1日（月）、株式会社北日本新聞社と包括連携協力に関する協定を締結しました。富山県内における地域の様々な課題の解決を図り、地域の発展や本学の学生の成長に寄与することを目的としています。引き続き、本学の活動にご注目ください。

富山国際大学は、産学官連携を進め、魅力・特色ある教育を展開し、地域人材の育成や社会の発展に貢献していくことに取り組んでいます。

2025（令和7）年3月31日（月）、富山県と包括的連携協定を締結しました。主に「教育・人材の育成」「若者の県内定着の促進」「地域の振興、まちづくり」「国際化・DXの推進」の項目・分野で協力を進めていきます。

2025（令和7）年6月4日（水）、あおば農業協同組合と産学連携に関する協定を締結しました。学生と共同での地域課題解決への協力や研究開発、食育活動や地域住民への情報提供・PRなど多岐にわたる連携を

## 富山短期大学

### 1年次父母等向けに就活セミナーを行いました

2025（令和7）年10月19日（日）、第5回呉羽キャンパス合同大学祭に併せ、富山公共職業安定所 富山新卒応援ハローワークから講師をお招きして「社会人を目指す学生の父母等のみなさまに」というテーマでご講演をいただきました。

ご講演では、労働市場、就職活動の状況や学生・父母等としての心構え等についてお話がありました。参加された方々からは、「参加して良かった」「新卒応援ハローワークのことについて知ることができてよかった」「家族の支援方法も参考になった」などのお声をいただきました。

本学キャリア支援センターからは、本学の昨年度就職実績、実際の就職活動、編入学等について説明いたしました。

2027（令和9）年3月卒業予定の学生の就職活動においても、各学科の教員とキャリア支援センターが連携・協力し、一層充実した就職活動ができるよう支援してまいります。



## 富山国際大学附属高等学校

### 全国高校生食育王選手権大会 総合3位(銅メダル)



行われ、本校チームは福井の厚揚げと富山の呉羽梨をコラボさせた料理「梨香る厚揚げマンドゥ」を完成させ、審査員から好評を得ました。

第19回全国高校生食育王選手権大会の決勝大会が2025（令和7）年10月5日、福井市のにぎわい交流施設ハピテラスで行われ、本校家庭部3人（門嶋茉柚さん、清水聖那グレスさん、張美涵さん＝全員1年生）の「チーム友達」が総合3位を獲得しました。福井県が主催する同大会には、全国から予選を勝ち抜いた各ブロックの代表8チームが、食育の知識と技を競い「第19代高校生食育王」の座に挑みました。この日の午前は、「食育4択クイズ」や実技「食育チャレンジ3本勝負」を通して、知識と味覚、料理技術が試されました。そして午後からは、テーマ「コラボご当地グルメの開発」に合わせた料理作りとプレゼンテーションが

## 富山短期大学附属みどり野幼稚園

### 『おっきいおいも、ほれたよ！』

2025（令和7）年10月29日（水）短大の中庭にあるさつまいも畑で全園児が集まって芋掘りを行いました。「おいも、おおきくなったかな？」「はやく、おいもほりたい！」と芋掘りの日を楽しみにしていました。いよいよ芋掘りのスタートです。長い芋づるを「よいしょ！よいしょ！」と力を合わせて引っ張ります。でも、なかなかおいもは出てきません。そこで、手で土を掘りました。すると、少しずつ土の中からおいもが見えてきました。「うわー、おいもがでてきた！」と大喜びです。さらに掘り進めると大きなおいもが掘れました。「やった！ほれたよ！」「おっきいおいもだ！」と大興奮の様子でした。みんなでどんどん掘り進め、たくさんのさつまいもを掘ることができました。後日、みんなで掘ったさつまいもで焼き芋をするのを楽しみにしています。



# 令和6年度 決算及び財務の状況

## 決算及び財務の状況

令和6年度の事業報告及び決算は、去る2025（令和7）年5月30日開催の理事会において承認及び2025（令和7）年6月30日開催の評議員会において了承されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

### 大学

大学は、現代社会学部は入学定員を下回り、子ども育成学部は入学定員を僅かに下回り、大学全体においては収容定員を下回りました。当年度収支差額では、2,662千円（R5 77,371千円）の赤字計上となりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなっています。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

### 短大

短大は、全ての学科で入学定員を下回ることであり、短大全体においては収容定員を大きく下回りました。学生生徒等納付金収入の減少等により、当年度収支差額は△262,018千円（R5 △166,918千円）と赤字となりました。少子化や全国的な4年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後さらに厳しさが増していくことが予想されます。

### 高校

高校は、入学定員を上回り、高校全体においても収容定員を確保できました。当年度収支差額では、43,888千円（R5 57,158千円）となり、前年度より黒字額が減となりました。

### 幼稚園

幼稚園は、全体では定員を下回りました。当年度収支差額は、施設型給付費の増等により5,613千円（R5 △4,642千円）と黒字となりました。今後は、多様な保育ニーズに応えることにより、安定的に園児数を確保することが必要です。

## 学園全体の決算及び財務状況

**事業活動収支計算書**（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,763百万円（対前年度比47百万円増）、事業活動支出合計が2,833百万円（同117百万円増）、以上のことから、事業活動収支は120百万円（同70百万円減）の赤字となりました。

収入減の主な要因は、学生生徒納付金の減等によるものです。支出増の主な要因は、人件費が前年度に比べ増となったこと等によるものです。

この結果、令和7年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、令和5年度の前年度繰越収支差額△2,321百万円に、令和6年度の当年度収支差額△255百万円を加え、△2,576百万円となりました。

### 資金収支計算書

令和6年4月1日から  
令和7年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	6年度予算	6年度決算①	前年度決算②	差異①－②
<b>収入の部</b>				
学生生徒等納付金収入	1,809,867	1,799,894	1,903,274	△ 103,380
手数料収入	37,855	28,839	32,396	△ 3,557
寄付金収入	1,503	1,424	1,960	△ 536
補助金収入	671,649	764,650	685,224	79,426
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	28,408	30,313	21,758	8,555
受取利息・配当金収入	2,320	3,479	1,033	2,446
雑収入	95,698	102,119	51,495	50,624
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	446,890	380,580	405,660	△ 25,080
その他の収入	82,260	108,230	145,230	△ 37,000
資金収入調整勘定	△ 529,670	△ 547,819	△ 487,091	△ 60,728
前年度繰越支払資金	1,049,835	1,049,835	1,085,116	△ 35,281
収入の部合計	3,696,616	3,721,544	3,846,055	△ 124,511
<b>支出の部</b>				
人件費支出	1,723,278	1,740,911	1,620,719	120,192
教育研究経費支出	720,057	625,861	631,553	△ 5,692
管理経費支出	160,357	154,079	151,723	2,356
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	35,179	33,050	1,262	31,788
設備関係支出	66,837	60,324	72,899	△ 12,574
資産運用支出	4,512	54,176	237,249	△ 183,073
その他の支出	82,083	91,495	158,504	△ 67,009
（予備費）	( 0)			
資金支出調整勘定	△ 161,000	△ 128,198	△ 77,688	△ 50,510
翌年度繰越支払資金	1,049,813	1,089,846	1,049,835	40,011
支出の部合計	3,696,616	3,721,544	3,846,055	△ 124,511

### 事業活動収支計算書

令和6年4月1日から  
令和7年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	6年度予算	6年度決算①	前年度決算②	差異①－②
<b>教育活動収入の部</b>				
学生生徒等納付金	1,809,867	1,799,894	1,903,274	△ 103,380
手数料	37,855	28,839	32,396	△ 3,557
寄付金	3,506	2,340	2,296	44
経常費等補助金	671,649	763,948	684,818	79,130
付随事業収入	28,408	30,312	21,758	8,554
雑収入	95,697	123,936	65,003	58,933
教育活動収入合計(1)	2,646,982	2,749,269	2,709,545	39,724
<b>教育活動支出の部</b>				
人件費	1,727,278	1,782,967	1,648,709	134,258
教育研究経費	1,046,057	935,009	952,560	△ 17,551
管理経費	165,156	159,296	155,064	4,232
徴収不能額等	2	0	0	0
教育活動支出合計(2)	2,938,493	2,877,272	2,756,333	120,939
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 291,511	△ 128,003	△ 46,788	△ 81,215
<b>収入の部</b>				
受取利息・配当金	2,320	3,479	1,033	2,446
その他の教育活動外収入	0	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	2,320	3,479	1,033	2,446
<b>支出の部</b>				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,320	3,479	1,033	2,446
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 289,191	△ 124,524	△ 45,755	△ 78,769
<b>特別収入の部</b>				
資産売却差額	2	0	0	0
その他の特別収入	3,603	10,571	6,074	4,497
特別収入合計(8)	3,605	10,571	6,074	4,497
<b>特別支出の部</b>				
資産処分差額	6,100	5,605	10,343	△ 4,738
その他の特別損失	1	5	0	5
特別支出合計(9)	6,101	5,610	10,343	△ 4,733
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 2,496	4,961	△ 4,269	9,230
【予備費】(11)	( 0)			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 307,187	△ 119,563	△ 50,024	△ 69,539
基本金組入額合計(13)	△ 34,229	△ 135,527	△ 29,358	△ 106,169
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 341,416	△ 255,090	△ 79,382	△ 175,708
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,320,989	△ 2,320,989	△ 2,241,607	△ 79,382
基本金取崩額(16)	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,662,405	△ 2,576,079	△ 2,320,989	△ 255,090
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,652,907	2,763,319	2,716,652	46,667
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,960,094	2,882,882	2,766,676	116,206

## 令和6年度学校法人富山国際学園財務分析について

令和6年度決算の財務分析によると、大学・高校・幼稚園では、経常費ベースでの収益性は、おおむね良好であるものの、法人全体では悪化しており、安全性を高める必要がある。短期的な支払い能力（返済力）は特に問題なしと判断される。

**事業活動収支差額比率**（損益ベースでの収支状況）は、学園全体でマイナスであり、中でも短大が大きなマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**（人件費の収入に対するバランス）では、短大・高校が60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究費比率**（教育研究費の経常収入に占める割合）は目安とされる30%を高校は下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

**積立率**（安定的に経営を行う上での保有資産の状況）は76.6%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

**流動比率**（短期的な支払い能力）は215.4%と返済力には問題はない。

今後、本学園は教育活動の維持・向上及び学園全体の将来像を見据えた計画的施設設備投資が見込まれることを考慮すると、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

## 【参考】財務指標の意味

（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより）

### ①事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入】

事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。

### ②人件費比率【人件費／経常収入】

人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因となる。

### ③教育研究費比率【教育研究経費／経常収入】

教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。

### ④積立率【運用資産／要積立額】

運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要（保有すべき要積立額）に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。

### ⑤流動比率【流動資産／流動負債】

流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

## 【主な財務指標】

（単位：千円）

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,763,320	2,882,883	-119,563	-4.3%	64.8%	34.0%	76.6%	215.4%
大学	1,145,834	1,102,197	43,637	3.8%	57.0%	33.2%		
短大	736,564	940,922	-204,358	-27.7%	75.7%	44.3%		
高校	764,148	691,074	73,074	9.6%	63.2%	24.8%		
幼稚園	109,648	102,666	6,982	6.4%	55.0%	38.5%		

## 活動区分資金収支計算書

令和6年4月1日から  
令和7年3月31日まで

（単位：千円）

## 貸借対照表

令和7年3月31日

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	12,490,403	12,687,957	△ 197,554
有形固定資産	6,835,850	7,051,910	△ 216,060
特定資産	5,653,228	5,634,722	18,506
その他の固定資産	1,325	1,325	0
流動資産	1,261,675	1,146,500	115,175
資産の部合計	13,752,078	13,834,457	△ 82,379
負債の部			
固定負債	625,787	618,334	7,453
流動負債	585,723	565,992	29,731
負債の部合計	1,211,510	1,174,326	37,184
純資産の部			
基本金	15,116,648	14,981,120	135,528
第1号基本金	14,910,049	14,779,534	130,515
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,599	13,586	13
第4号基本金	193,000	188,000	5,000
繰越収支差額	△ 2,576,079	△ 2,320,989	△ 255,090
純資産の部合計	12,540,569	12,660,131	△ 119,562
負債及び純資産の部合計	13,752,079	13,834,457	△ 82,378

科目	金額	科目	金額
教育活動による資金収支		収入	
学生生徒等納付金収入	1,799,894	借入金等収入	0
手数料収入	28,839	退職給与引当特定資産取崩収入	34,290
特別寄付金収入	1,424	預り金受入収入	2,794
一般寄付金収入	0	修学旅行費預り金受入収入	1,380
経常費等補助金収入	763,948	小計	38,464
付随事業収入	30,312	受取利息・配当金収入	3,479
雑収入	100,347	過年度修正収入	1,772
教育活動資金収入計(1)	2,724,764	その他の活動資金収入計(2)	43,715
人件費支出	1,740,911	借入金等返済支出	0
教育研究経費支出	625,860	第3号基本金引当特定資産繰入支出	13
管理経費支出	154,074	退職給与引当特定資産繰入支出	52,783
教育活動資金支出計(2)	2,520,845	修学旅行費預り資産繰入支出	1,380
差引(3)=(1)-(2)	203,919	小計	54,176
調整勘定等(4)	△ 60,770	借入金等利息支出	0
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	143,149	過年度修正支出	5
施設整備等活動による資金収支		その他の活動資金支出計(3)	54,181
施設設備備付金収入	0	差引(4)=(2)-(3)	△ 10,466
施設設備補助金収入	702	調整勘定等(5)	0
施設設備売却収入	0	その他の活動資金収支差額(6)=(4)+(5)	△ 10,466
施設整備等活動資金収入計(6)	702	支払資金の増減額(小計十その他の活動資金収支差額)(7)+(6)	40,011
施設関係支出	33,050	前年度繰越支払資金	1,049,835
設備関係支出	60,324	翌年度繰越支払資金	1,089,846
施設整備等活動資金支出計(7)	93,374		
差引(8)=(6)-(7)	△ 92,672		
調整勘定等(9)	0		
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△ 92,672		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)(11)=(5)+(10)	50,477		

## 部門別事業活動収支計算書

（単位：千円）

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	
教育活動収入	学生生徒等納付金		1,799,895	860,170	553,697	385,218	810	0	特別収入	経常収支差額(7)=(3)+(6)		△ 124,524	42,643	△ 203,068	68,685	6,109	△ 38,893	
	手数料		28,838	11,059	8,243	9,514	22	0		収入差額の部	資産売却差額		0	0	0	0	0	0
	寄付金		2,340	2,120	79	0	141	0		支出差額の部	その他の特別収入		10,572	2,322	2,953	4,424	873	0
	経常費等補助金		763,948	179,955	137,454	343,738	102,801	0		特別収入合計(8)	特別収入合計(8)		10,572	2,322	2,953	4,424	873	0
	付随事業収入		30,312	6,515	18,919	0	4,978	0		支差額の部	資産処分差額		5,606	1,328	4,243	35	0	0
	雑収入		123,936	83,478	15,181	21,254	23	4,000		特別収入合計(9)	その他の特別支出		5	0	0	0	0	5
	教育活動収入合計(1)		2,749,289	1,143,297	733,473	759,724	108,775	4,000		特別収支合計(9)	特別収支合計(9)		5,611	1,328	4,243	35	0	5
	人件費		1,782,967	651,546	555,106	480,041	59,781	36,493		特別収支差額(10)=(8)-(9)	特別収支差額(10)=(8)-(9)		4,961	994	△ 1,290	4,389	873	△ 5
	教育研究経費		935,009	379,519	325,138	188,457	41,895	0		基本金組入前当年度収支差額(11)=(7)+(10)	基本金組入前当年度収支差額(11)=(7)+(10)		△ 119,563	43,637	△ 204,358	73,074	6,982	△ 38,898
	管理経費		159,296	69,804	56,435	22,541	990	9,526		基本金組入額合計(12)	基本金組入額合計(12)		△ 135,527	△ 46,299	△ 57,660	△ 29,186	△ 1,369	△ 1,013
徴収不能額等		0	0	0	0	0	0	当年度収支差額(13)=(11)+(12)	当年度収支差額(13)=(11)+(12)		△ 255,090	△ 2,682	△ 262,018	43,888	5,613	△ 39,911		
教育活動支出合計(2)		2,877,272	1,100,869	936,679	691,039	102,666	46,019	前年度繰越収支差額(14)	前年度繰越収支差額(14)		△ 2,320,989	—	—	—	—	—		
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)		△ 128,003	42,428	△ 203,206	68,685	6,109	△ 42,019	基本金取崩額(15)	基本金取崩額(15)		—	—	—	—	—	—		
受取利息・配当金		3,479	215	138	0	0	3,126	翌年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	翌年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)		△ 2,576,079	—	—	—	—	—		
その他の教育活動外収入		0	0	0	0	0	0	(参考)	(参考)									
教育活動外収入合計(4)		3,479	215	138	0	0	3,126	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)		2,763,320	1,145,834	736,564	764,148	109,648	7,126		
借入金等利息		0	0	0	0	0	0	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)		2,882,883	1,102,197	940,922	691,074	102,666	46,024		
その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0	0	事業活動収支合計(1)-(事業活動支出合計)	事業活動収支合計(1)-(事業活動支出合計)		△ 119,563	43,637	△ 204,358	73,074	6,982	△ 38,898		
教育活動外支出合計(5)		0	0	0	0	0	0	基本金組入前当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額		△ 119,563	43,637	△ 204,358	73,074	6,982	△ 38,898		
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)		3,479	215	138	0	0	3,126											

# 富山国際学園 ご寄付のお願い

## 学生・生徒・児童の未来のためご支援をお願いいたします

本学園では、学生・生徒・児童がより良い環境で学び、実り豊かな学園生活を送れるよう、質の高い教育・研究の充実に加え、教育環境の整備に努めております。

この度、この活動をさらに推進するため、皆様からの温かいご支援を賜りたく、ご寄付を募らせていただくことになりました。皆様からお寄せいただいたご寄付は、ご希望の用途に沿って、有効に活用させていただきます。

### 寄付金額

個人一口:5千円

法人一口:5万円

※何口でもお申し込みいただけます。また、一口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。

### 寄付金の使途例

教育の質向上の取組、課外活動支援、国際交流促進、教育研究施設・設備の充実、など

※ご希望の機関(大学、短大、高校、幼稚園)及び使途をお選びいただけます。

### お手続きの流れ

#### ① ご寄付申込フォーム(二次元コード)に必要事項をご入力ください。

※寄付金申込書のご提出によるお手続きをご希望の方は、以下ウェブサイトをご確認ください。

- ・富山国際大学 <https://www.tuins.ac.jp/about/donation/>
- ・富山短期大学 <https://www.toyama-c.ac.jp/news/003299.html>



#### ② ご入力いただいた情報を確認の後、振込依頼書をお送りします。指定の口座にご入金をお願いいたします。

### 税制上の優遇措置(個人、法人)

詳細は、大学・短大のウェブサイトにてご説明しております。(お手続きの流れ①記載のURL参照)

#### 【税制上の優遇措置(個人)】

所得控除の制度を確定申告の際に利用することができます。また、個人住民税についても控除される場合があります。入金確認後にお送りする「寄付金領収書」を添えて、所轄税務署に確定申告してください。

#### 【税制上の優遇措置(法人)】

法人からのご寄付については、寄付金額を当該事業年度の損金に算入できます。「特定公益増進法人への寄付金」または「受配者指定寄付金」のいずれか一方を選択し適用を受けることができます。

### 問い合わせ先

学校法人富山国際学園 本部事務局 寄付金担当 TEL 076-436-5139 MAIL honbu@tii.ac.jp

## 令和7年度部門別学生・生徒・園児数等

2025(令和7)年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大学	現代社会学部	490	88	97	109	123	417	85.1%	
	子ども育成学部	370	89	88	92	96	365	98.6%	
	小計	860	177	185	201	219	782	90.9%	
短大	食物栄養学科	160	70	62			132	82.5%	
	幼児教育学科	160	77	57			134	83.8%	
	経営情報学科	220	90	102			192	87.3%	
	健康福祉学科	80	19	26			45	56.3%	
	専攻科食物栄養専攻	30	12	8			20	66.7%	
小計	650	268	255			523	80.5%		
高校	全日制普通科	750	311	304	265		880	117.3%	
幼稚園		110	3歳児 22	4歳児 28	5歳児 25		75	68.2%	
合計		2,370					2,260	95.4%	